

令和八年度

岡山白陵高等学校入学試験問題
(二期)

国

語

受験番号	
------	--

注意

- 一、時間は五〇分で一〇〇点満点です。
- 二、問題用紙と解答用紙の両方に受験番号を記入しなさい。
- 三、開始の合図があったら、まず問題が一ページから一八ページまで順になっているかどうかを確かめなさい。
- 四、解答は解答用紙の決められたところに書きなさい。
- 五、字数制限のあるものについては、句読点も一字に数えます。

—
次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

進化の話には、じつに多くの誤解がつきまとっている。私が「進化論」という言葉が嫌いなのは、そこにもろもろの誤解がすべてこびりついているように感じるからということもある。

誤解の筆頭に挙がるのが、先にも述べたように、^①進化を進歩と同一視する考えではないだろうか。「進化する I T 技術」のように、技術が向上することを進化と表現することが、商品の宣伝で日常的に使われていることもその表れであり、その考えを^②「ジヨチヨウ」してもいるのだろう。

生物に関しても、昆虫などの無脊椎動物よりも、脊椎動物のほうが進歩して上であり、脊椎動物のなかでは、魚類や両生類よりも哺乳類のほうが進歩して上であると考える。そして、進化の頂上に立つのが人間だと考えるのだろう。

脊椎動物が無脊椎動物よりもあとに出てきたのは事実だし、哺乳類は魚類よりもあとに出てきた。私たちヒトは、哺乳類のなかでは新しく出てきた生物であることは間違いない。しかし、それを「進歩」と呼ぶのは間違いだ。なぜなら進歩とは、「より良いものになる」という価値観の表現だからである。

生物は単純なものから進化してきたので、あとから出てきた種しゅのほうが、^③体制が複雑であることが多い。しかし、複雑な種のほうが「より良い」ものだと思うのは、価値観の問題だ。良い悪いは価値判断だからである。体制が単純か複雑かだけの話なら事実の^④「ビョウシヤ」だが、複雑なほうが単純なものよりも優れていると考えるのは、価値観の表明であり、科学ではない。

また、生物はより **A** な体制をもつように **B** するという法則も存在しない。しかし、人間には、必ずや複雑になるはずだと考えてしまう傾向があるようだ。いったん、眼めという複雑な器官をもつようになった生物のグループのなかで、眼を失ったものが出てくると、それを「退化」と呼びたくなる。

そして、「退化は進化の反対ですか？」という質問が出てくるのだが、これも間違いだ。眼という複雑な器官を獲得したあとで、眼が必要いない状況で暮らすようになった生物のなかに、眼を失うものが出てくるのは進化の 1 つの形

態である。

次によくある誤解は、② 進化には目的があるという考えだろうか。生物進化は、生物の集団内に生じた遺傳的変異が、その後、集団内に広がっていくかどうかの話なので、そこに目的は存在しない。

もしも、ある生物集団が生息する環境において、ある遺傳的変異が生存と繁殖上有利であるならば、変異は広がっていく可能性が高い。不利であれば消えていくだろう。

また、そんな生存と繁殖上の有利・不利とは関係が ⁱⁱ ない変異は、集団のサイズが小さければ、増えるかどうかはたんなる偶然に任される。それを言えば、生存と繁殖上有利である場合でも、本当に集団中に広がるかどうかには、かなりの偶然が関わっている。

ある生物の生息環境が一定で、長い期間にわたって何も変化がないならば、その生物は変わら ⁱⁱⁱ ない。だから、カプトガニやシーラカンスなど、大昔からほとんど変化していない生物が存在するのだ。それは、彼らの生息環境が安定しているので、異なる変異が有利になる状況が生まれなかったからだ。それらの生物を「生きた化石」などと呼ぶのも、生物は「進化・進歩」して当然という考えの表れなのかもしれない。

ものには目的があると思うのは、人間だからなのだろう。ヒトは目的をもって物事を行なうので、たんにそのときの周囲の状況に適合しているだけで、状況が変われば変わるということは、あまり良く ^{iv} ないことのように思っている。目的といった主観的な概念は、ヒトにしかないのだろうが、ヒトは、自分にとってそれがあまりに当然であるがゆえに、すべての事柄にも当てはめてしまうのだろう。

先に述べた、進化とは進歩であるという考えも、ヒトの生き方と ^c ミツセツに関連しているのだと思う。近代の人は、時代とともに技術が改良され、社会制度も良くなるような改革が行なわれてきた光景を目の当たりにして生きてきた。それが染みついてるので、生物は皆、もつと良くなるうという目的をもって生きており、だんだんと進歩してきたと思ってしまう。

^{注3} ダーウィンが最初に科学的な進化理論を提出したのは、19世紀の半ばだった。まさに社会の進歩を皆が実感していた時代である。ダーウィン自身は、生物の進化をそのような進歩の ^d カテイだと考えていなかった。

ところが、多くの人びとは、進化が世の中の進歩を説明する理論だと誤解して受け入れたのではないか。だから、

スペンサーの「社会進化論」があれほど流行したのだ。しかし、^③それは皆、間違いなのである。

(長谷川眞理子^{はせがわまりこ}『美しく残酷なヒトの本性』による)

(注1) 体制——生物体の基本構造。

(注2) 遺伝的変異——生物やウイルスの遺伝情報が変化すること。

(注3) ダーウィン——イギリスの自然科学者。

問1 〰〰〰線部a) 〰〰〰のカタカナを漢字に直しなさい。

問2 〰〰〰線部「ない」と文法的に同じ働きのものを、……………線部i) iv)の中から一つ選び、記号で答えなさい。

問3 〰〰〰線部①「進化を進歩と同一視する考え」とありますが、「進化」と「進歩」とはどう違いますか。これらを説明した次の文のI・IIに言葉をあてはめ、説明を完成させなさい。

「進化」とは、生物の生態や形態が、長い期間を経るうちにIこと。
「進歩」とは、生物の生態や形態が、長い期間を経るうちにIIこと。

問4

A・Bに入る言葉の組み合わせとして、最も適当なものを次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

ア	A 複雑	B 退化	イ	A 単純	B 退化
ウ	A 複雑	B 進化	エ	A 単純	B 進化

問5

——線部②「進化には目的があるという考え」とありますが、なぜそのような「考え」が生まれたのですか。最も適当なものを次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

- ア 私たちは周囲の状況が変化しても目的を変えずに行動することをよしとし、その考えを進化にもあてはめてしまうから。
- イ 人間は何かを推し進めようとするときには、手段や方法を考慮するより、目的を実現させることを重視しがちだから。
- ウ ヒトは遺伝的変異を繰り返していく中で、生物進化の点で生存上に有利となる、目的追求の遺伝子を獲得したから。
- エ 進化には目的があるとするとダーウィンの科学的な進化理論が提出され、近代の人びとがそれに強く影響を受けたから。

問6

——線部③「それは皆、間違いなのである」とありますが、「それ」とはどのようなことですか。指示に従って、次の文の X ・ Y に言葉をあてはめて、説明を完成させなさい。なお、後に挙げた一文は、本文よりも前に書かれている記述です。参考にしなさい。

X (本文中から五字で抜き出す)

をじかに体験した近代の人びとが、生物や社会における進化理論とは、

Y (四十字以内で考えて書く)

と思い込んだことで、スペンサーの「社会進化論」が流行したこと。

「社会進化論」とは、19世紀半ばにハーバート・スペンサーという英国の哲学者・社会学者が唱えた議論で、人間の社会は、原始的な状態から徐々に高度なものへと向上していくという考えだ。

このページに問題はありません。

二
次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。なお、設問の都合上、本文中の空白行に

i

ii

を付しています。

大学入試を直前にひかえた奈津子は、阪神・淡路大震災で被災した祖母と同じ部屋で過ごすことになり、お互い気を遣いながら生活するが、無事に東京の大学に合格した。しかし、上京後すぐに祖母は亡くなってしまふ。

葬儀の三日後の朝、奈津子は再び東京に向かった。

新幹線のなかで眠り続けて東京駅に着くと、上空を数機のヘリコプターが飛んでいる。

そして、地下鉄の全線が止まっていた。カバンの奥に入れたポケット(注)を見つめると、実家からの呼び出しが何度もある。

電話をかけたいが、公衆電話には列ができていた。ようやく順番が回ってきて電話をかけると、涙ながらに「無事なの？ なつちゃんは無事なの？」と母は何度も繰り返した。

東京の複数の地下鉄に毒物のようなものがまかれ、たくさんのお客様が病院に運ばれているのだという。

動いている路線をなんとか乗り継いでアパートに帰り着いたのは二時間後。急いでテレビをつけると、ヘリコプターからの映像が画面に映っていた。

地下鉄の地上出口に(注)大勢の人々が倒れている。喉や口を押さえ、苦しそうに路上に横たわる姿が上空から、はつきりと見てとれた。

二ヶ月前の、震災の映像を思い出した。

あのときテレビで見た煙の下に祖母はいた。(注)崩壊した街のなかで、必死になって助けを呼び、泣いていたのに。いつも、ただ見ているだけ。何もできずにいる――。

言葉にならない声が漏れた。不用意に出たその声の大きさに驚く。気付かぬうちに、(注)拳を握っていた。悔しい。何もできずにいた自分が。

握った拳をゆっくりと広げる。

祖母の背中と手の感触が④鮮やかによみがえってきた。

四月上旬の午前十時、犬用のクッキーとおもちやを持ち、奈津子は八稜高校を訪れた。

コーシローはいつも、朝は用務員の蔵橋と一緒にいる。ところが今日は用務員室にはいなかった。蔵橋によると、ここ数日、図書館の近くにいることが多いそうだ。

教わった場所に足を運ぶと、図書館の脇にコーシローが座っていた。

金網越しに十四川の桜並木を眺めている。

花の時期には人出が多かった川沿いの道も今は静かだ。枝には若葉が茂り、清々しい緑の木立が鈴鹿の山々に向かって延びている。

コーシローと呼びかけ、奈津子は隣にかがむ。

「私のこと、覚えてる？ 卒業式の日にお祖母ちゃんと一緒に写真を撮ったよ」

並木を見ていたコーシローが優しい目で奈津子を見た。続いて頬の匂いを嗅いだ。

愛しくなり、両手で耳の後ろの付け根を撫でてやる。つぶらな茶色の目がじつと見つめてきた。

「お祖母ちゃんは死んじゃったんだ。だけどね、私たちにおいしいものを食べてって、お金を置いていってくれた。だからコーシローにおやつを持ってきた。あとで食べてね」

頬の匂いを嗅いでいたコーシローが奈津子の手を舐めた。

せっかく受かった大学は入学式にも出ないで退学した。東京のアパートも引き払った。

親には強く反対されたが、医学部の再受験を決めた。入学金や前期の授業料、上京にまつわる費用をすべて無駄にしてしまったが、祖母が遺してくれたものが背中を押してくれた。

自分の葬儀代を引いたあと、残りはすべて孫の学資にしてほしいと、祖母は郵便局の通帳が入った袋にメモを挟ん

でいた。ほかにも成人式の晴れ着を贈りたいと、奈津子と久美子(注4)の名義で積み立てていた貯金もあった。

それでもこれから一年の浪人生活、無事に医学部に入れてもあと六年。七年近く、親に負担をかける。だから志望は地元の国立大学医学部だけにしぼった。

上京の日、(注5)祖母がくれようとしたあの金封も遺品のなかにあった。中身の半分はコーシローへのプレゼントに、残りの半分はいつか医師になれたとき、おいしいものかCDを買おうと思う。

犬に話したところで、わかってももらえない。それでも、夢中になって話していた。

「大丈夫かな？ 私、大丈夫だろうか？ なんで今さら医学部へ。二浪するかもしれないのに。親に負担をめちゃくちゃかけるのに……。効率悪いことしてる、すぐくぶさま」

コーシローが奈津子の肩に頭をすり寄せた。その身体を抱きしめると温かい。

「コーシロー、お前はあつたかいね」

頬を舐められ、奈津子は笑う。励まされているみたいだ。

真つ白な犬の背を撫で、奈津子はその手を太陽にかざす。

明日がどうなるのか、誰にもわからない。だから必死に学んで、①これからこの手を変えていく。

生きているもののぬくもりを守る手に。

明日の行方は、この手でつかむのだ。

ii

掲げられた手に頭をすり寄せると、優しく撫でてもらえた。

ナツちゃん、と卒業式のとき、この子はお祖母さんに呼ばれていた。

ナツちゃんの頬は、つつじの蜜の匂いがする。

その匂いにさつきまで ②いやな匂いが混ざっていた。

酸っぱいその匂いのことはよく知っている。怖いときの匂い。何かを恐れているときに出る匂いだ。おそれを舐めとるように頬を舐めると、いやな匂いは薄れていった。今では甘い蜜の香りが心地よく漂っている。

安心して尻尾を振ると、ナツちゃんが笑った。

「ありがとね、コーシロー。会えてよかった。私、そろそろ行くね」
ナツちゃんが立ち上がり、再び頭を撫でてくれた。

〔C〕
「お別れなんですネ……」

元気ですね、という言葉が聞くと、長いお別れが来る。この間もたくさん卒業生に撫でられながらこの言葉を聞いた。

ナツちゃんが背中を向け、ゆっくりと歩いていった。

その姿が遠くなったとき、クラハシの足音が近づいてきた。

「よかった、やっぱりここにいたんだね、コーシロー。可愛^{かわい}がってもらえたかい？」

クラハシに抱き上げられ、コーシローは尻尾を振る。

「彼女、優しい子だ。コーシローだけじゃなく、私のところにもお菓子を持ってきてくれたよ」

小さく一声吠^ほえると、ナツちゃんが振り返った。クラハシが前脚をつかみ、^③人が手を振るよう^④にして脚を振ってくれた。

「手を振ろう、コーシロー。あの子の幸せを祈って。先生方はいつか同窓会で会えるが、私たちはおそらく二度と会えないから」

力強い足取りでナツちゃんは進んでいく。^④彼女の姿を春の光が包み込んでいた。

(伊吹有喜『犬がいた季節』による)

(注1) ポケットベル——無線呼び出し端末。受信専用で、数字やカタカナを表示できた。

(注2) 祖母の背中と手の感触——地震の時、隣の幼い子を助けられず、年寄りの自分だけが助かったことで自らを激しく責め、身体を震わせて泣く祖母の背中と手を奈津子がさすり、落ち着かせようとしたことがあった。

(注3) 八稜高校——奈津子の母校。この高校には「コーシロー」という名の犬が住み着いており、「コーシローの世話をする会」の生徒たちが代々、世話をしてきた。奈津子もその一人だった。

(注4) 久美子——奈津子の妹。

(注5) 祖母がくれようとしたあの金封——祖母が用意した餞別せんべつ。これでおいしいものを食べる、CDを買えと祖母は言ってくれたが、奈津子は、このお金で祖母自身のためのテレビを買えと言って、受け取らなかった。

問1 〰〰〰線部①②の漢字の読みを、ひらがなで答えなさい。

問2

A C にあてはまる言葉として最も適当なものを次のア～カの中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

ア 元気でね、コーシロー

イ ありがとう、コーシロー、私、頑張るよ

ウ やめてよ、コーシロー

エ あのね、私…

オ 覚えてるって？ お前は賢いね

カ 覚えてるわけないか、犬のお前が

問3

——線部①「これからこの手を変えていく」とあるが、これまでの奈津子の手はどんな手だったのですか。指示された字数で、次の文の

・

 にあてはまる言葉を本文中から抜き出して入れ、説明を完成させなさい。

人が大変な目に遭っていても

、

 思いで握りしめることしかできなかった手。

問4

——線部②「いやな匂い」とあるが、いやな匂いの原因は何だと考えられますか。四十字以内で具体的に説明しなさい。

問5

——線部③「人が手を振るようにして脚を振ってくれた」とありますが、このとき、コーシローはどのような思っていたのでしょうか。最も適当なものを次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

ア 何やってるんだよ、クラハシ。脚が痛いじゃないか。

イ ありがとう、クラハシ。ちゃんとお別れができたよ。

ウ わかっただろ？ クラハシ。ナツちゃんがいい子だったことが。

エ ジャマするなよ、クラハシ。せっかくナツちゃんとの別れを惜しんでいたのに。

問6

——線部④「彼女の姿を春の光が包み込んでいた」とありますが、この一文はどのようなことを暗示していると思われますか。最も適当なものを次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

- ア 春の光に包まれた奈津子をコーシローが見送っているということから、コーシローとの再会によって新たな目標を見つけた奈津子が、目標達成後にまたコーシローに会いに来るということを暗示している。
- イ コーシローの目に春の光に包まれた奈津子の姿が映っていることから、コーシローと触れ合う中で自分の決断に自信を持たせた奈津子が、明るい未来に向かって一歩ずつ進んでいくことを暗示している。
- ウ 春の光に包まれて去った奈津子をコーシローが見送っていることから、コーシローと奈津子が再会することはもうないが、信頼関係は揺るぐことなくいつまでも続くということを暗示している。
- エ コーシローの目に春の光に包まれた奈津子の姿が映っているということから、コーシローはもうすぐ亡くなり、奈津子の亡き祖母と一緒に、あの世から奈津子のことを見守るということを暗示している。

問7

空白の行

i	・	ii
---	---	----

 はそれぞれどういうことを示していますか。最も適当なものを次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

- | | | | | | | |
|----------------|--|-------------------|---|----|---|----|
| ア | <table border="1" style="display: inline-table;"><tr><td>i</td></tr></table> | i | <table border="1" style="display: inline-table;"><tr><td>ii</td></tr></table> | ii | <table border="1" style="display: inline-table;"><tr><td>ii</td></tr></table> | ii |
| i | | | | | | |
| ii | | | | | | |
| ii | | | | | | |
| は回想シーンに入ること示し、 | は回想シーンに入ること示し、 | は視点が変わること示している。 | は視点が変わること示している。 | | | |
| イ | <table border="1" style="display: inline-table;"><tr><td>i</td></tr></table> | i | <table border="1" style="display: inline-table;"><tr><td>ii</td></tr></table> | ii | <table border="1" style="display: inline-table;"><tr><td>ii</td></tr></table> | ii |
| i | | | | | | |
| ii | | | | | | |
| ii | | | | | | |
| は回想シーンに入ること示し、 | は時間が経過したことを示し、 | は時間が経過したことを示している。 | は時間が経過したことを示している。 | | | |
| ウ | <table border="1" style="display: inline-table;"><tr><td>i</td></tr></table> | i | <table border="1" style="display: inline-table;"><tr><td>ii</td></tr></table> | ii | <table border="1" style="display: inline-table;"><tr><td>ii</td></tr></table> | ii |
| i | | | | | | |
| ii | | | | | | |
| ii | | | | | | |
| は時間が経過したことを示し、 | は時間が経過したことを示し、 | は回想シーンに入ること示している。 | は回想シーンに入ること示している。 | | | |
| エ | <table border="1" style="display: inline-table;"><tr><td>i</td></tr></table> | i | <table border="1" style="display: inline-table;"><tr><td>ii</td></tr></table> | ii | <table border="1" style="display: inline-table;"><tr><td>ii</td></tr></table> | ii |
| i | | | | | | |
| ii | | | | | | |
| ii | | | | | | |
| は時間が経過したことを示し、 | は時間が経過したことを示し、 | は視点が変わること示している。 | は視点が変わること示している。 | | | |

問 8 本文の内容を踏まえた感想としてふさわしくないものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 阪神・淡路大震災と地下鉄毒物事件を通して、自分の進路に大きな決断を下した主人公に賛辞を贈りたい。
- イ 人間の手というものには、いろいろな意味があることに気付かされた小説だった。
- ウ 同じ時間のできごとを複層的に表現しているところがおもしろかった。
- エ 利害関係や色眼鏡で物事を見る人間よりも動物の方が客観的に物事を見ることができると思った。

三

次の文章は、藤原道綱母『蜻蛉日記』の一節についての解説文です。本文は、藤原道綱母（本文中では「蜻蛉」が、当代第一の権力者の息子である藤原兼家と結婚し、翌年の八月に子供の道綱が生まれた後の場面です。これを読んで、後の問いに答えなさい。なお、設問の都合上、本文を一部省略したところがあります。

結婚した当初はしげしげと通ってきた兼家には、ほかにも妻がいました。一夫多妻制の時代ですから、ごく普通のことです。兼家も、時姫という女とのあいだにたくさん子供をもうけています。男の子が三人、女の子が二人です。兼家が時姫のところによく行くところを見ると、居心地のいい家だったのかもしれない。

九月になって、兼家が出て行ったあと、文箱ふばこが置いてあったので、なんとなく開けてみると、兼家というのは本当にA男おとこですね、よその女にあてた恋文が出てきました。さあ、蜻蛉はおさまりません。手紙を見たところとだけでも知らせてやろうと、兼家に歌を送ります。

うたがはしほかにわたせる文ふみみればここやとだえにならんとすらん

「もうここへはおいでにならないつもりね」

「うたがはし」の「はし」と「橋」、「文」と「踏み」が掛詞かけことばになっています。①蜻蛉の予想したとおり、十月の末頃すえ、三夜さんや続けて来ないときがありました。そのくせ、兼家は知らぬ顔で、ちよつと試したのだと言いわけるのです。

ある夕方、今日は宮中で外せない用事があると言って、兼家が慌ただしく出て行きます。蜻蛉は女の直感で、なんだか怪しいと思います。後をつけさせると、町の小路のどこそこというところに車を停めた、と知らせてきます。

やはりほかに女がいたと知った蜻蛉は、二、三日後、兼家が訪ねてきたとき、門を開けさせませんでした。すると、兼家は町の小路の女の家とおぼしきところに行ってしまった。

翌朝、蜻蛉が兼家に贈った歌は、「百人一首」にも採られた有名な歌です。

② なげきつつひとり寝る夜をあくるまはいかに久しきものとかはしる

「来るか来るかと思って待っていたのに、とうとう来なかった。嘆きながら一人で寝ている間の夜の明けるまではどんなに長いものか、あなたは知らないの」

これに対する兼家の返歌です。

げにやげに冬の夜ならぬ真木の戸もおそくあくるはわびしかりけり

「わかっているよ。冬の夜でなくても、槇の戸をなかなかあけてくれないのは辛いものだよ」

しばらく兼家の訪れがないと蜻蛉は疑心暗鬼になります。今日も来てくれなかった。明くる日も来てくれない。しかも、何々があつて忙しいとか、方角が悪いとか、言い訳が多いのです。そういうことがたび重なると、普通の女ならあきらめるでしょうが、真面目が着物を着ているような蜻蛉はそうは思いません。恨みごとをくどくど述べる手紙を遣わします。愛の深い証拠なのでしようが、それだと男としては B が悪くて、少々来づらいですね。「どんな様もただいまお忙しい時ですから」と、とりなす女房（注と）がいるかと思うと、「いまはもうどこそこの女に入りびたりだそうです」と、別の女房が告げ口をします。

こういうことに対し、きちんと分別するのが大人の女なのですが、蜻蛉は兼家に不満を言つてばかりで、^③ まだ大人になりきつていないのです。

（田辺聖子『田辺聖子の古典まんだら』による）

（注1）三夜続けて——当時、三日連続して男が女のもとに通っていけば、結婚が成立していた。

（注2）女房——貴族などの家に仕える女性。

問1 〓 線部「うたがはし」の読みを、現代かなづかいを用いてひらがなで答えなさい。

問2 A にあてはまる言葉として最も適当なものを、次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

- ア 大きっぱな イ お人よしな ウ 計算高い エ 情趣を解する

問3 〓 線部①「蜻蛉の予想したとおり、十月の末頃、三夜続けて来ないときがありました」とありますが、どのようなことがあったので「予想」できたのですか。二十字以内で説明しなさい。

問4 〓 線部②「なげきつつひとり寝る夜のあるまはいかに久しきものとかはしる」とありますが、この歌について説明した次の文章の I II III にあてはまる言葉を、 I II III の歌の中から、 III I II は 〓 線部②より前の解説文の中から、指定された字数で抜き出して入れ、説明を完成させなさい。

この歌の I (三字) II (一字) III (一字) の部分には掛詞の技法が使われており、 I II III を I II III という意味が掛けられている。それによって、蜻蛉は I II III を I II III で待たずによそに行った兼家を責めているのである。

問5

B

にあてはまる言葉を本文中から探し、抜き出して答えなさい。

問6

——線部③「まだ大人になりきっていない」とありますが、「蜻蛉」のどういうところが「大人」ではないと言っていますか。最も適当なものを次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

- ア 真面目すぎてすぐに女房や兼家の言うことを真に受けて、周囲に不満ばかりぶつけるところ。
- イ 兼家がよその女の元に通って自分の元に訪れて来ないことが許せず、恨みを募らせるところ。
- ウ 女房の言葉を素直に聞き入れることができず、兼家に対してすぐ疑心暗鬼になってしまうところ。
- エ 技巧的な和歌で兼家の気を引こうとするが、素直に愛情表現ができず相手を責めてしまうところ。

問7

『蜻蛉日記』と同じ平安時代に成立した作品を、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 平家物語

イ 徒然草

ウ 源氏物語

エ 奥の細道